

## シリア難民危機、第2次大戦後最悪か

国際ジャーナリスト 国木田 勝

## アサド政権、反体制派にサリンばら撒く？

## 海外レポート

化学兵器に歯止めかららず

去る4月16日、北朝鮮が弾道ミサイルを発射したことを受け、米国が作成した北朝鮮を非難する国連安全保障理事会の報道声明草案にロシアが異議を唱え、対話を通じた政治的解決を模索する文言を追加するよう求めている。

これより先、ロシアはシリアでの化学兵器使用疑惑を巡る問題でも、プ



化学兵器使用疑惑で指弾されるアサド大統領

ーチン・ロシア大統領はシリア内戦の構図の中で、シリア、イランと手を組み、「自由シリア軍」など反体制派武装組織（ただし、トルコが敵視するクルド人勢力の他、米国が目の敵にするアルカイダ系のヌスラ戦線）シリア征服戦線や「イスラム国」「IS」を含むなど複雑）を支援する米国、トルコと対立を深めている。シリアのアサド政権は、多くの反体制勢力を抱え、6年間も続く内戦を鎮圧する力もない有り様で、すでに国民（人口約2198万7000人）のうち、約70万人が死亡、500万人超が家を追われ「第2次大戦後最悪」（国連）の難民を生み出している。4月4日、同国北部イドリブ県で起きたシリア政府軍による空爆は、80人以上の死者と350人の負傷者を出した。

この際、化学兵器を充填した爆弾が使用されたと見られているものの、

米国やロシアなどが介入して真相究明や責任者の処罰の見通しも立っていない。

このように和平交渉の目途も立たず、国際条約が禁じる化学兵器使用にも歯止めがかからない現状を今後どうするのか、国連を中心に見極める必要があるはずだ。

国際機関の「化学兵器禁止機関（OPWC）。本部、オランダ・ハーグ」は、4月19日、先述のシリア・イドリブ県でのアサド政権軍の空爆での被害者10人のサンプルを分析し、「（猛毒の神経ガス）サリンまたはこれに似た物質」の使用を確認した、との結果を発表した。

OPWCのウズンジュ事務局長は、サリンなどが使用されたとする分析結果は「議論の余地がない」と断定、安全が確保されれば、彼らの調査団を空爆現場に派遣する用意があるとしている。

OPWCは4月13日、空爆を巡る対応を協議するため、ハーグで緊急会合を開催した。

そして、化学兵器が実際に使用されたかどうかを調べるため、シリアの隣国トルコに調査官を派遣し、被害者から採取したサンプルの回収や、被害者への聞き取り調査などを行なっていた。

シリアでの内戦は、始まってからすでに6年経過している。反体制派のシリア政府軍に対する攻撃は、攻めるも引くも効果の点で遅々として進んでいないのが実情だ。

そこへアサド政権軍が化学兵器を使用した疑いが浮上したため、米国のトランプ大統領も黙止できなくなつたのか、遂に重い腰を上げざるを得なくなり、シリア攻撃に踏み切った。

トランプ大統領は、当初、シリア国内での過激派組織ISの掃討を最優先するとして、ロシアとの協調も



アサド政権支援のためロシアは同国に攻撃機を常駐(ロシア国防省)

視野の内にに入れていた。

国連安保理では、4月早々に緊急会議を開き、シリア北部で化学兵器を使用したと見られる空爆に関し、「猛毒のサリンが使われた」可能性ありとして、常任理事国の米英仏3国がアサド政権を非難、同政権が調査を受け入れるよう求めて、決議案の採択を目指した。

緊急会合でロシア代表は、空爆を巡る動きについて「シリア政府に敵対するものだ」と彼らの肩を持ち、関与を否定した。

## 庇いようのない中東の暴君

ロシア外務省は、アサド政権の非難決議案に拒否権行使する方針を明示している。

米国のヘイリー国連大使は、空爆に関し「アサド政権が自国民に化学兵器を使用した」と述べ、英国大使はロシアを「庇いようがない者(アサド政権)を庇おうとしている」と批判した。

現地からの情報によると、今回の空爆で子供25人を含む83人が死亡し、350人が負傷。シリア内戦で最悪級の化学兵器被害の可能性がある。

ロイター通信によると、米政府当局は攻撃でサリンが使われたとの見解だと言う。

トランプ大統領は、4月4日の声明で「アサド政権による極悪な振る舞いだ」と述べ、シリア政権軍による攻撃と断定した。

また、ティラーソン米國務長官も声明で「ロシアとイランを含め、アサドを擁護し、支援して来た者達は、アサドや彼の意図に関する幻想を捨てるべきだ」と、名指しでの批判を加えている。

国民のほぼ4人に1人が難民という、第2次大戦後最悪のシリア内戦。出口は全く見えない(国連)



現在、アラブ諸国を含む世界が一体となつて、極悪なアサド政権を非難しているのに、ロシアはまたしてもアサドの肩を持った。

国連筋も「ロシアが化学兵器による攻撃の加害者(アサド)を擁護し

たことに弁解の余地がない」と口を揃えて、ていつ、アサド両者を批判する。

これらの国にイランを加え、全世界が警戒心を持って見守る図式が定着しているようだ。